



## 21年度 府教委・市教委夏期交渉Ⅱ

# ・給与引き下げでモチベーションは低下

# ・現場実態に即した GIGA スクール構想を

\* ニュースレター154号では、府教委交渉について報告しました。今回は京都市教委交渉の報告です。

### 組合とのやり取り

☆給与カット **引き下げはモチベーションの低下を招く、早急な終結を**

組合：7月からの給与月額引き下げについて、早急な終結を改めて求める。困難な中で働いている教職員のモチベーションを下げないよう一刻も早い終結をすることが必要。教育委員会事務局からも財政当局に要求をすべきだ

☆超勤縮減について **当局の主体的な取り組みを**

組合：京都市働き方改革方針の数値目標（＝在校等時間にかかる超過勤務を月45時間以内の達成(2024年度末)、月80時間超えの教員を毎年度ゼロにする、など）は、2020年度にどの程度達成できたのか？

市教委：(数字的には) 極端に減ってはいるが、コロナ禍の休校措置もあったので、単純に比較できない。学校再開後の9月～12月で比べたところ、1時間15分程度減っている。ただそれはコロナ禍の中で行事等のとりくみが制限されたことによる時間減だとみている。その分、コロナ対応の精神的負担も大きく、単純に時間が減っているから良かったととらえてはいない。

組合：超勤縮減のとりくみ主体は、まずは教育委員会、主体的なとりくみをすすめるべき。

☆GIGAスクール構想対応 **理念のあるICT教育 まずは人材と環境の整備を**

市教委：(超緊縮減との関係で) コロナ禍でのGIGAスクール対応による勤務時間増を懸念している。夏休み以降、こどもたちに教育活動で本格的に活用してもらいたいと考えている。教育

活動のあり方も変わっていくが、働き方改革の数字が前進するように取り組みたい。

**組合：**GIGA スクール構想を夏休み明けに全面的に活用という言葉聞いて、非常に驚いている。GIGA スクール構想のために新しい人員が現場に配置されたわけではないので、新たな業



## 戻ってこい 笑顔

務が増えたという思いが強い。特に GIGA 担当者は出勤して座る間もなく、トイレに行く間もなく授業のサポートに走り回っている。また夏休み明けに全面的に使わなければならないという発信はやめるべき。やる学校がすばらしいという発信はなくすべきだ。現場へのプレッシャーだ。小学校 1 年生の子どもたちが、タブレットに ID、パスワードをうちこまなくてはならない。ローマ字、アルファベットも学んでいない子どもたちが黙々とやって 1 時間が終わる、などという実情がある。その準備のために担任は大きな文字盤を作成したり四苦八苦している。緊急時のリモート授業のためにだけ GIGA スクールがはじまったわけではないにも関わらず、利用、習熟を強要される。とにかく専任の人を配置してもらわないと現場はまわらない。退職校長などがサポートにはいっているという話も聞くがスキルがおいついていないという声も聞く。ICT 支援員などの専門職をあててほしい。現場の声をきいて、人を配置するよう強く要求したい。

**市教委：**9月から全面的に・・・については、言葉足らずだった。夏休みに一気に GIGA を展開してもらいたいという意味ではない。この 1 年は GIGA スクール元年、いろいろな課題もでてくるので、ステップを踏んですすめたい。夏休み明けにはだれもがログインできるというあたりを想定している。9月にどんどんすすめていくという意味ではない。人の配置については、国の方に要望していきたい。PC の経費や、今後の更新も含めて必要な予算は、国、市の財政当局に要望したい。

### ☆男性の育児休業 具体的申請での不備改善を

**組合：**育児休業取得促進できるように、代替の人の配置が大切。育児休業取得の申請様式が女性の育児休業を前提として作成されている。女性の場合は産後休と育児休業が接続しているので 1 ヶ月前の育児休業申請書に必要な子どもの名前、生年月日が記入できるが、男性が子ども誕生後すぐに取得する場合には、いずれも記入できないので 1 ヶ月前の申請は無理。様式の変更検討を求めておく。

### ☆キャンセル料対応 子どもや家庭の責任ではないことの理解を

**組合：**コロナ対応による行事変更の場合、昨年同様キャンセル料の保護者負担がないようにできるという情報を現場に徹底してほしい。合唱コンクール等の会場キャンセルについても対応してほしい。